

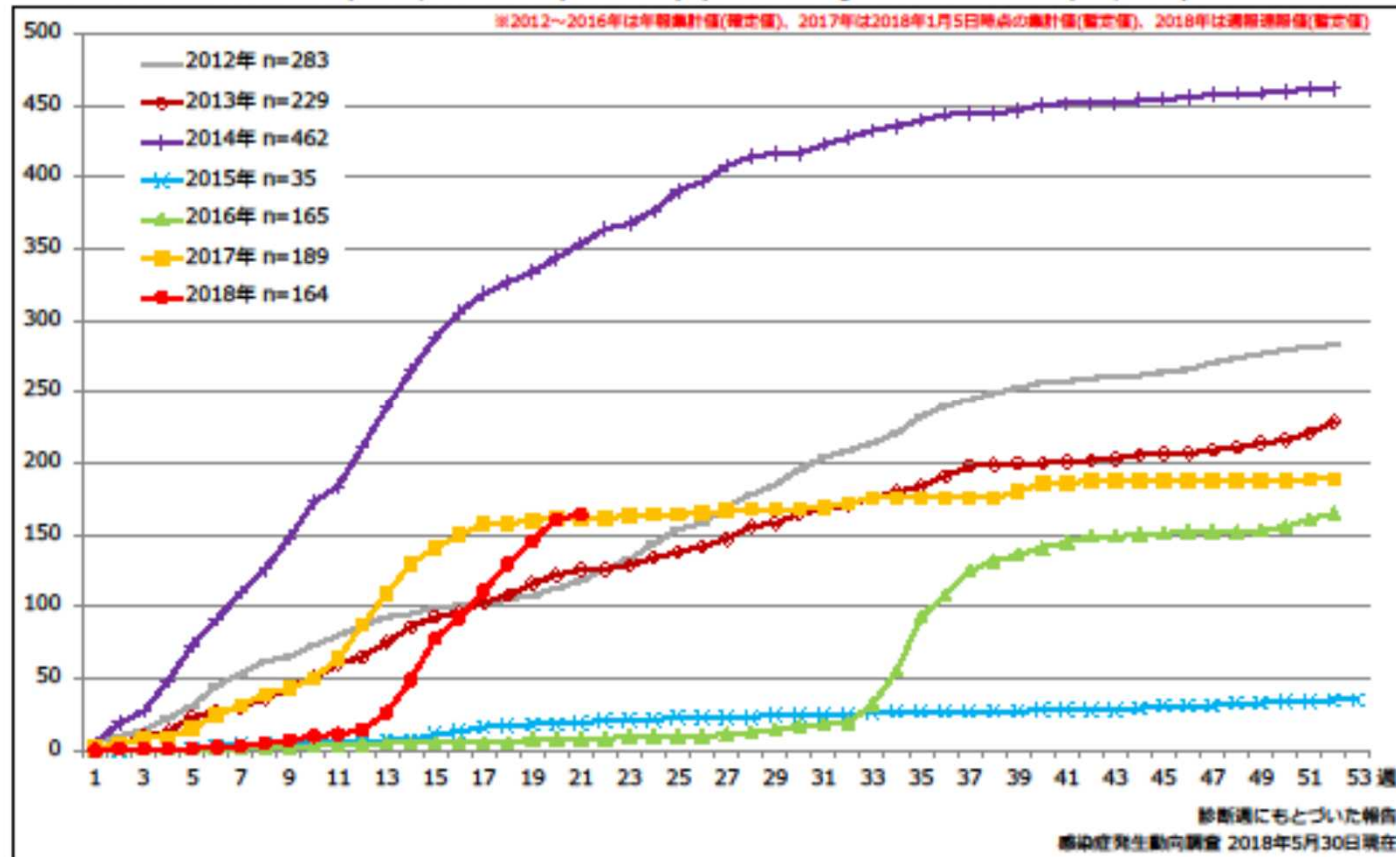
麻しんの発生状況

資料1

2018年6月7日時点

1. 麻しん累積報告数の推移 2012～2018年（第1～21週）

Cumulative measles cases by week, 2012-2018 (week 1-21) (based on diagnosed week as of May 30, 2018)



平成27年3月27日、WHOにより、日本は排除状態*にあると認定された。

*適切なサーベイランス制度の下、土着株による麻しんの感染が3年間確認されないこと、又は遺伝子型の解析によりそのことが示唆されること。

【麻しんの発生報告数の年次推移】(※) 国立感染症研究所の発生動向調査による5月27日までの累積数(6月5日公表値)

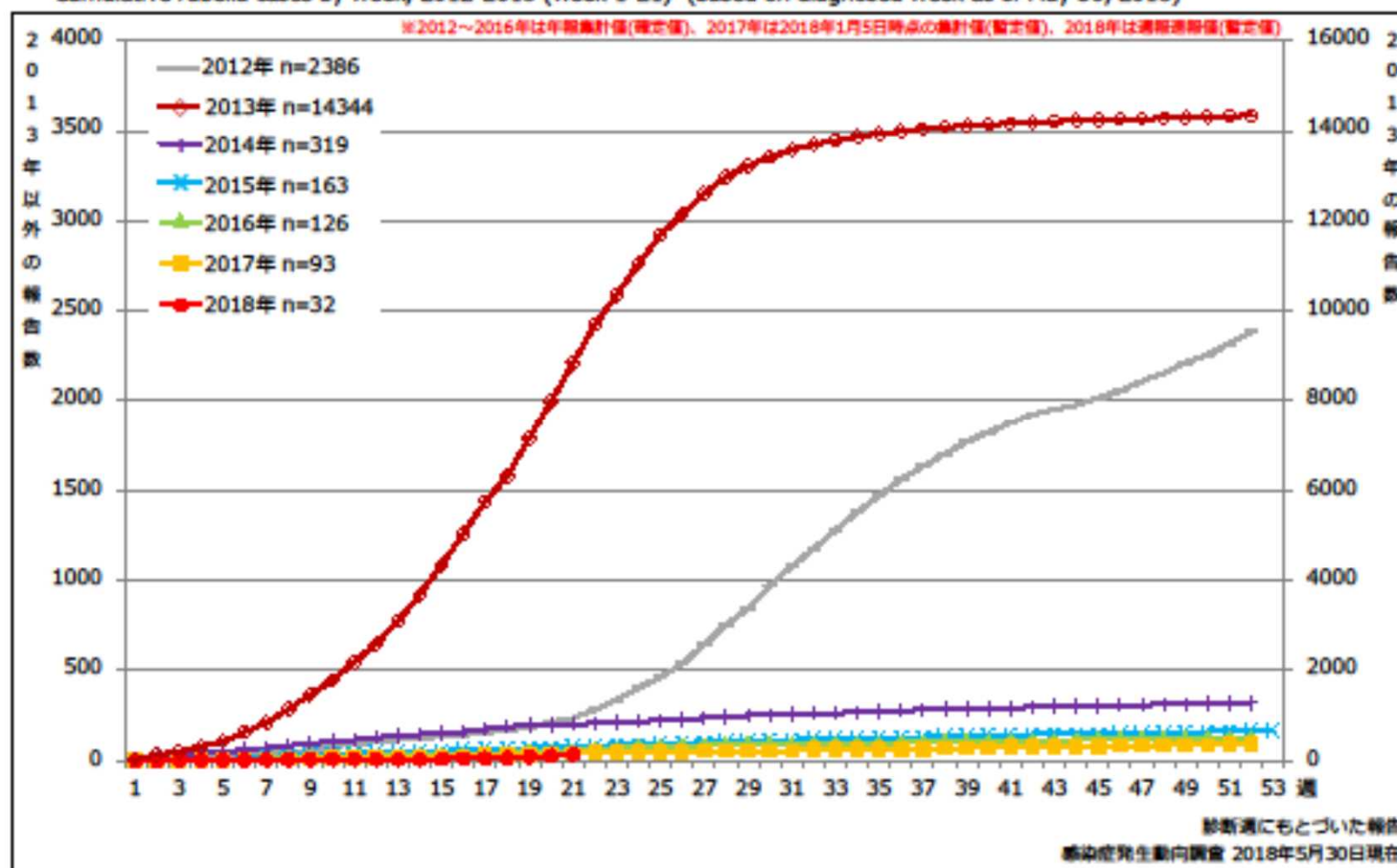
年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年(※)
報告数	11,005	741	447	439	283	229	462	35	159	189	164

風しんの発生状況

2018年6月7日時点

1. 風しん累積報告数の推移 2012～2018年 (第1～21週)

Cumulative rubella cases by week, 2012-2018 (week 1-21) (based on diagnosed week as of May 30, 2018)



【風しん・CRSの発生報告数の年次推移】CRSは1999年4月～開始(2006年の報告から感染地域が報告対象となった)

年	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
風しん												87	378	2386	14344	319	163	125	93	32
CRS	0	1	1	1	1	10	2	0	0	0	2	0	1	4	32	9	0	0	0	0

国立感染症研究所の発生動向調査。2016年は2017年1月6日時点の集計値(暫定値)、2017年は週報速報値(暫定値)、2018年は5月27日までの累積数(6月5日公表値)

沖縄県における麻疹集団発生事例

事例の概要

平成30年5月30日時点

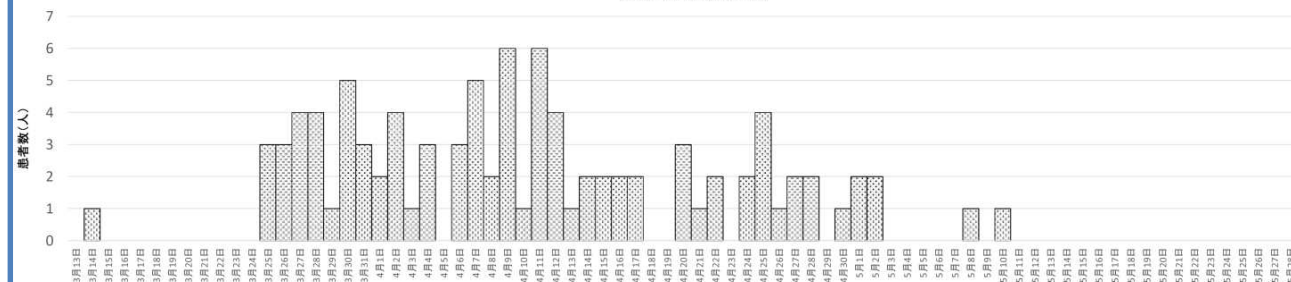
- 初発例：台湾から沖縄への観光客(30歳代男性)
 - ・3月14日発熱、17日入国、19日発疹出現し受診、20日麻疹と診断、届出。19日までに那覇市、糸満市等の観光地を巡っていた。
 - ・3月23日、沖縄県が麻疹患者の発生についてのプレスリリース(第1報)を公表。
- 3月29日以降、接触者との接触や初発例の利用した施設を利用した者から麻疹発症例が報告されている(5月28日公表時点で初発例を含み99例)。
- 4月7日、那覇市の要請を受け国立感染症研究所がFETPを派遣。
- 4月11日、厚生労働省から各自治体、日本医師会へ、広域発生の可能性がある旨の注意喚起をする事務連絡を発出。
- 4月12日、沖縄を推定感染地とする麻疹患者が、愛知県で報告された(さらにこの患者からの感染例が、4月21日から報告されている。)。また、5月3日に、川崎市から沖縄を推定感染地とする麻疹患者が報告された(この患者からの感染例も、5月9日に報告された)。
- 4月26日、ゴールデンウィークもあり、人の移動が活発化する時期であることを踏まえ、改めて注意喚起の通知を発出すると共に、海外渡航者への注意喚起のためリーフレットを作成し、自治体や関係省庁等に周知を依頼。
- 集団発生の事例は散発的に発生しているものの、5月28日時点で沖縄県だけでも99例と、平成28年の関西国際空港の事例(33例)や平成29年の山形県の事例(60例)と比べても大規模な集団発生となっている。

本事例の特徴

- 初発例が海外からの帰国者ではなく、旅行客である。
- 初発例が人に感染させやすい期間に、人の多い観光地や大型商業施設等を利用している。
- 沖縄県は全都道府県のうち定期予防接種率が最も低いため、感染拡大の危険性が高い(平成28年度、第1期95.2%、第2期89.8%。全国平均は第1期97.2%、第2期93.1%)。

図1：沖縄県麻疹流行曲線(発熱日)

2018年5月28日現在(n=94*)



発熱日(2018年)

*医療機関で確認された4名を含む
*確定例は99名いるが、5名調査中